



平成 24 年 12 月 14 日 第 2 卷(第 36 号)

発行： 東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル 2F

災害対策本部 TEL (03)3351-5038

FAX (03)5366-1058

mail: dsstsw@jaswhs.or.jp

*** 目 次

1. 現地支援活動報告
2. 現地感想文
3. 災害対策本部からのお知らせ
4. 事務所感想文



小塚満里子さん（秋田県成人病医療センター）と、荒木千保子さん（恵寿総合病院）。

— 現地石巻 photo —

*** 1. 現地支援活動報告

活動期間:2012年11月29日~12月1日

八木 和栄 (大阪府 大阪府済生会吹田病院)

震災以来、募金という形でしか支援ができていないことに、一抹の後ろめたさを感じていたところ、今回のような活動の機会を得られ感謝しています。

今回の石巻支援は2回目だったため、現地の様子や支援状況などが多少分かって訪問したつもりでした。しかし、牡鹿半島の先端の町や女川町近辺にある家への訪問の機会があり、震災がどれだけ広範囲に影響したのかを改めて認識しました。自宅訪問した家の奥さんが「体育館に避難したのが震災の翌日だったために、名簿から漏れて支援物資がもらえなかった。隣近所の家は半壊の認定だったのに、私の家は一部損壊だったので、修理のお金も自分で出して、そのために蓄えも少なくなったので不公平感が残る。今でも時々揺れるので怖い。」という話を聞き、震災の影響は続いているなど感じました。

支援に関しては、2次調査が終了し、支援が必要なケースも絞られてきて、一時的な支援ではなく地域に根差した息の長い支援が必要な時期に来ているような印象を受けました。震災前から何らかの課題を抱えていた人たちの支援ケースが多く、協議会と市や関係機関の間で地域包括支援システムの検討会議も試行されており、現地でも今後どのように支援していくのがよいのかを模索している様子が見られました。

スポットで行く支援員自身もお客様状態で行くのではなく、何が求められているのかをしっかりと把握していく必要があると感じました。

活動期間:2012年11月29日~12月1日

高取 梓 (大阪府 大阪府済生会中津病院)

今回、復興支援活動に初めて参加させて頂きました。現地に伺うことも初めてだったので、現地スタッフの方々に迷惑にならないだろうか、3日間で自分にどんなことができるのだろうか、と出発前は不安でした。

被災されている場所に行き、現地スタッフの方々に支援の状況を色々と教えていただき、震災から1年9ヶ月経った今だからこそ抱えている問題がたくさんあることを知りました。「自分に何ができるのだろうか」と考え続けた3日間でしたが、まずは現地の状況を知ることができ、このような機会を与えてくださった方々、そして何よりお忙しい中受入れてくださった現地スタッフの方々に感謝しております。

遠く大阪の地でも、何かできることはないか、と今も考えさせられる毎日です。

<参加を検討している方へのメッセージ>

実際に足を運ぶからこそ問題を身近に感じられるのだ、と実感しました。

ぜひ一度は現地に赴き、自分の体と心で感じていただければと思います。

活動期間:2012年12月1日~12月3日

谷岡 美穂 (東京都 初台リハビリテーション病院)

今年の2月と3月に約1ヶ月滞在させていただいてから、9カ月ぶりの参加でした。

現地担当者の負担が増えない形で、不安と勇気と謙虚さをもって参加する全国のソーシャルワーカーが、「こんな自分でも役に立った」と思って帰れる体制を考え続けた3日間でした(私が考えることではないのですが)。

社会福祉協議会や地域包括支援センターなどの地域の関係機関との連携、情報の共有、先行研究に基づいた継続・完了の判断基準、後発発生リスクケースのアセスメントとスケール作成、継続頻度の決定のプロセス、現地滞在ソーシャルワーカーの負担軽減。様々な課題があると感じましたが、取り急ぎ取り組める課題として、参加したソーシャルワーカーのフォローが取り組めるとよいのではないかと感じました。

介護に疲れていても、介護関連サービスは利用していて、すぐに他の制度利用が必要ではない人。失業して仕事が見つからないけれど、すぐに生活保護が必要な状況ではない人。すぐに問題解決のために動けるケースは目に見えてわかりやすく、ソーシャルワーカーにとっての達成感が感じやすい一方、上記のような今すぐ動きが必要ない人の、予防的な関わりの効果は証明しづらく分かりにくいものです。全国の病院ソーシャルワーカーにとって、コミュニティワークの経験が不足していることも考えると、予防的な関わりの価値や意味を共有し、全国のソーシャルワーカーが参加する意義を感じられるフォロー体制があるとよいと感じました。災害援助の課題の一つは、援助者が抱える無力感や喪失感の整理の仕方と意味づける方法なのだろうと感じました。ソーシャルワーカーが行ったことの意味を、自ら信じる知識や技術や力が必要だと感じました。

参加させていただきありがとうございました。

<参加を検討している方へのメッセージ>

今でもソーシャルワーカーに関わる意味があります。

いつまで、誰が、どのようには来て見て考えるものだと思います。

石巻の人の声、町の様子を私達が感じることで、次の石巻での取り組みと私達のいる場所での災害ソーシャルワークの準備に繋がると感じるのではないのでしょうか。

高校生カフェを関西のTV局が取材中。

— 現地石巻 photo —



*** 2. 現地感想文

*** 12/5 久保木 美由紀(現地担当)

本日渡波ミーティング第1回目が行われました。参加者は市保健師、地域包括、RCIメンバーでした。

渡波地区にどんな問題があり、どんな形で何をしていけば良いのか、地域の人々と一緒に協働で解決の方法を考えていくというミーティングの趣旨を確認し、お互い何ができるか、お互いが持っている情報を出し合い解決に向けての話し合いがスタートしました。

次回は、問題の全体像を把握し、役割について検討し、協働していく(まきこんでいく)方々についても話し合いが進みそうです。

※RCI…石巻医療圏・健康生活復興協議会

*** 12/6 久保木 美由紀(現地担当)

石巻も徐々に寒くなってきています。

毎朝車のフロントガラスに霜がおり、それを取ることが日課になってきました。

寒さの本番が楽しみです。

*** 12/7 中本 典子(高知県 仁淀病院)

石巻における支援活動は、まさにソーシャルワーカー業務が凝縮されているというのが私の一番感じたことでした。

だからこそ、ソーシャルワーカーがこの活動に協会を通してかかわる意味を体感、実感することができました。

(活動期間:12月3日～6日)

*** 12/8 久保木 美由紀(現地担当)

昨日、訪問途中で地震に会い車の中で大きな揺れを感じました。すぐに中里サポートセンターへ向かいましたが、車は渋滞でした。サポートセンターへ着き、仲間と会えた時は本当にホッとしました。

石巻市民の方の気持ちを思うとやるせない気持ちでいっぱいです。

*** 12/9 井田 茂樹(神奈川県 国立病院機構神奈川病院)

協力員 2 回目ということで、今回はひとりでフォローを担当させていただいた。特に、拒否心配を多く担当させていただいたので、事前のアポイントをとらずに訪問して、如何に玄関を開けていただき、話をお伺いできるかというところに持てる力を注ぐようにした。

実際に訪問して感じたのは、アセスメントの方が心配拒否というには、なるほど理由があるなというところ。すすんで話していただける方はそう多くなく、一方で、一人暮らし、引きこもり、障害がある、介護があるといった私たちが気になることを抱えていた。その世帯のやり方、生き方があり、相談できる環境があるといった中では、いくつかフォローを完了とさせていただいたりもしたが、新たな展開につながりそうな方は、私自身に関われないにもかかわらず、継続としてケースを起こしてしまった。仕事を増やさせてしまったなという思いもあり、申し訳ないですが、この日本医療社会福祉協会の支援のバトンをお願いしたいと思う。

最後に、この短い期間でありながらも、昨日は地震、津波警報発令という事態を経験させていただいた。長い地震に地元のスタッフが、本当に怯えて「こわい。こわい」という様を見て、また、TV から流れる「1 年前を思い出して！逃げて！引き返さないで！立ち止まらないで！」というアナウンスを聞いて、これでは石巻の人たちのところが休まらない。住みたいところに住めなくなってしまうと、大変気の毒に感じた。私には帰るところがあるが、石巻の人たちはここに住み続けることになるわけだから、遠くからでも 2 度と地震、津波警報が出ないよう、心の底から祈り続けていたい。

(活動期間:12 月 6 日～8 日)

*** 12/10 久保木 美由紀(現地担当)

先日の地震の際に、避難所に指定されている小学校の1つが解放されなくて、住民の方々が大変困られたという話を聞きました。そこは川沿いの小学校だったので、地域住民の方の思いを想像するとパニック状態であったと思います。

宮城県沖地震がまだ来ていないとの事で、落ち着いてはいられないようです。就寝時に貴重品と着替えを枕元に置いて休むとの話でした。

現地でも、訪問中に警報が出たときにすぐに避難場所がわかるよう、車に避難所掲載の地図を準備しました。

最低限の水、食事、防寒具等を車と事務所に置くよう準備中です。

備えあれば憂いなしにしたいと思います。

***3. 災害対策本部からのお知らせ

【1.協力員募集】

***現 地

現在、1日あたり上限2~3名で募集しております。

中3日以上・なるべく平日の活動が理想的ですが、具体的な日程については、災害対策本部までお気軽にご相談ください。

***1月はまだ空いております。ご都合の付く方、ご協力をお待ちしております！

***事務所

引き続き募集しております。

平日のみの活動ですが1~2ヶ月に1回でも構いません。ご協力をお願い致します。

【2.災害対策本部会議】

次回は12月16日(日)10:30~協会事務所にて開催します。

【3.書籍販売】

『東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトン 1』の販売を行っています。

発災から昨年9月30日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録をまとめました。ぜひご覧になってください。尚、売上金の全額を皆様からの寄付として、本活動の資金に充てさせていただきます。

※ご注文は注文用紙で承ります。



***注文用紙はホームページからダウンロードできます。

http://www.jaswhs.or.jp/date/publishing_detail.php?@DB_ID@=45

【4.facebook】



facebook でも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしくお願いたします。

*** URL

<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

【5.YouTube】

現地での災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんがVTRにまとめて下さいました。YouTube にアップしましたので、是非ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。



*** URL

<http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4&feature=youtu.be>

【6.現地・事務所職員募集】

災害対策本部では現地・事務所職員を随時募集しています。
災害支援に関心のある方からのご応募をお待ちしております。
または周りでご興味のある方がいらっしゃいましたら、是非ご紹介ください。

***①現地常駐者(短期契約職員)

- ・就業場所:宮城県石巻市大街道北
- ・就業時間:9~17時
※業務の関係で残業あり。
- ・休日:土曜・日曜・祝日・年末年始
- ・基本給 250,000 円/月
- ・通勤費実費支給
- ・社会保険加入
- ・医療ソーシャルワーカー業務経験必須
- ・長期の方優遇。月単位でも応相談。

***②災害対策本部事務所担当(パート職員)

- ・就業場所:協会事務局内
- ・就業時間:週3日程度 10~17時
※業務の関係で残業あり。
※頻度・時間は応相談。
- ・休日:土曜・日曜・祝日・年末年始
- ・時給 900 円~ 通勤費は実費支給
- ・経験不問。医療ソーシャルワーカー業務経験者優遇

ご応募の方は下記宛に履歴書をお送りください。面接にて決定させていただきます。
または災害対策本部までお気軽にお問い合わせください。

***お問い合わせ

住所: 〒162-0065 東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル
電話: 03-5366-1057
担当: 笹岡・中川

*** 4. 事務所感想文

三輪さんに質問して、マニュアルを見て・・・と、四苦八苦しております。
「・・・の手習い」よろしく少しずつ覚えたいと思います。

12/7 災害対策本部事務所 金子 小夜子

東日本大震災 MSW 災害支援ニュース
平成 24 年 12 月 14 日 第 2 卷 36 号
作 成 群馬県医療ソーシャルワーカー協会



上毛カルタ：㊦んばせき（三波石）と共に名高い 冬桜
（群馬県藤岡市鬼石町）